

日本東アジア実学研究会主催  
第八回「実心実学読書会」

日時：11月28日（日）14：00～17：00（日本時間）

作品：**小倉紀蔵さん**『韓国の行動原理』（PHP新書、2021）

コメンテーター：**コウロさん**（東北大学 大学院博士後期課程）  
**柳生真さん**（韓国・圓光大学校 研究教授）

# プログラム

## 【第一部 90分】

14:00-14:10 小倉さんご紹介、趣旨説明（片岡）

14:10-14:30 参加者自己紹介

14:30-14:50 コウロさんコメント

14:50-15:00 小倉さんリプライ

15:00-15:20 柳生さんコメント

15:20-15:30 小倉さんリプライ

## **15:30-15:40 休憩**

## 【第二部 80分】

15:40-15:50 AHO読書会について(丹波博紀さん)

15:50-16:55 参加者との対話

16:55-17:00 次回予告（片岡）

# 小倉紀蔵さんご紹介

本名：小倉雅紀（おぐら まさのり）。

→多重主体

1959年5月14日、東京生れ。

→東北との関係

※小倉貞男（読売新聞サイゴン特派員→同紙編集委員→都留文科大学教授→中部大学教授）

『ドキュメント ヴェトナム戦争全史』（岩波現代文庫、2005再刊）、『朱印船時代の日本人』（中公新書、1989）

1983年、東京大学文学部ドイツ文学科 卒業。1988年、電通 退職。

1995年、ソウル大学校哲学科博士課程 単位取得退学。

東海大学外国語教育センター専任講師、同准教授を経て、  
現在、京都大学大学院人間・環境学研究科 教授。

※1999～2007年 ハングル講座（NHK教育テレビジョン）講師

専門：東アジア哲学。

著書：『群島の文明と大陸の文明（PHP 新書）』、『入門朱子学と陽明学』

『新しい論語』『朝鮮思想全史』（以上、ちくま新書）、『朱子学化する  
日本近代』（藤原書店）、『創造する東アジア』『〈いのち〉は死なない』  
（以上、春秋社）、『韓国は一個の哲学である』（講談社学術文庫） など多数。

※来年3月、日韓和解と尊厳の問題に関する新刊ご予約

# 趣旨説明（「実学」読書会としての今回のめざし）

1、韓国(異文化)の美の「実」像について深く知り合う契機とする。

<小倉紀蔵「朝鮮の美と時間意識」より>

・壺は、様々な力がそこで**闘争する場**である。

・**白磁の壺**はまさに「ハン」の造形であるといえることができるだろう。支配層と民衆、「理の白」と「気の白」、儒教とシャーマニズム、心と手、中原と北方、……そのような反対方向のベクトルが激烈にぶつかりあい、[…]「ひとつ」にあこがれながら闘争を継続する場、[…]これこそが**美**なのである。

・多数多様な世界観が秩序なく混在している姿が、かろうじて何らかの統一感を結晶させているとき、人はそこに美を感じるのであろう。[…]多数多様な世界観を持った**多数多様な主体** […]の多数多様な自己主張を、**どれだけひとつの壺に読み取る**ことができるのか、これこそが**美の訓練**である。

・**朝鮮（韓国）**とは、秩序の場でも無秩序の場でもない。理性の場でも感性の場でもない。それらが相拮抗し抗争する場なのである。

2、美の訓練(**熏習**、暗黙知\*)を通じて、新しい美(「人類全体の幸福を増すための文化パラダイム」)を共創し、社会に「**実**」現する。

\*「「専門家の集団になじんだり、長年の実践を通じて培われたりすることでのみ獲得される、深い理解」である。単に一次資料を読んで問題を理解したと勘違いするひとは、専門家ではない。」

3、「**学んだ**ことのたった一つの証(あかし)は**変わる**ことである」 (林竹二)

# 次回予告

## 【オンライン実心実学読書会第9回】

日時：1月22日（土）14：00－17：00（日本時間）

対象図書：西平直『養生の思想』（春秋社、2021/04/15）

1957年生まれ。信州大学、東京都立大学、東京大学に学び、立教大学、東京大学に勤務の後、2007年より京都大学教育学研究科教授。専門は、教育人間学、死生学、哲学。

コメンテーター：

王一兵(東北大学GSICSフェロー)、島田雄一郎(大船商船高等専門学校・講師)



「養生」とはなにか。そこに培われた、自らの身体と心をいたわる知恵とは。老荘・道教という淵源から、江戸期・貝原益軒の成就を語り、近代・公衆衛生との関係や、現代ホリスティック医学との親縁性をも示す、画期的な〈養生〉史。さらに、稽古・修行・修養との関連をも探り、“身体を介した自己の変容”を豊かな次元から問い直す。斬新・刮目の〈養生〉考。